

## 南九州市新庁舎建設基本構想・基本計画を踏まえた基本的な考え方

### 1. コンパクトでのびやかな「広場」と「縁側廊下」

庁舎の中央に「広場」と「縁側廊下」を据え、市民が集い・憩い・楽しむ、のびやかな空間をつくります。コンパクトに連続したこの空間は、庁舎の内外をめぐり、市民活動をつなぎます。

### 2. 風景に沿う意匠

憩いの風景に沿う、おおらかな勾配屋根の庁舎とします。庁舎機能に必要な適正な規模(2階建,6,980㎡)で構成し、茶畑や山並みの景色に配慮したシンプルな意匠とします。

### 3. 市民の誇りとなる「環の庁舎」

県道側へ大きく開くことで人を選ばず迎え入れると共に、誰もが訪れやすい庁舎とします。そして、ここで展開される市民の活動をひとつながりの「環」とし、平和なやわらかい風景、ひいては、市民の誇りを生み出していく「環の庁舎」を目指します。



## 設計チームの特徴・業務に対する取り組み体制

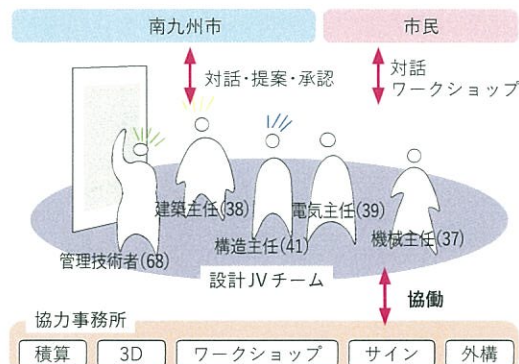
設計JVは、3社で構成します。建築・設備は、官民間問わず幅広い用途の建築実績を有する鹿児島島の事務所です。竣工後のメンテナンスも素早く対応できる体制を整えます。構造は、様々な構造種別・規模を手がけ、精鋭ぞろい、かつ高い技術力を有する東京の事務所です。

### ●経験豊富な管理技術者、若手設計者で構成する主任技術者

経験豊富な管理技術者のもと、各主任技術者は、40歳前後の若手担当で構成します。若さを活かし、市の要望に素早く柔軟に対応します。また、地元鹿児島島の若手主任技術者(建築・設備)だからこそ、担当者本人が竣工後の庁舎を永くケアしていくことができます。

### ●設計JVを各専門分野でサポートする協力事務所

積算・3D検計・ワークショップ・サイン計画・外構計画・ZEBコンサルタント等の協力事務所を段階的に決めます。各分野の専門家が協働する体制のもと、総合的に練られた独自の庁舎を提案します。



## 特に重視する設計上の配慮事項

### ●対話で進める庁舎づくり

設計担当者は、市民・職員と対話をしながら庁舎づくりを進めます。意見や要望を繰り返し聞き、把握した上で、自身の考えも踏まえ、計画へ反映します。共に考え、時間を共有するプロセスを大切にします。

### ●実例を共に見ること、新庁舎の程度感を共有

他の自治体の庁舎事例を市担当者と設計担当者が共に視察することで、新庁舎の程度感を共有します。例えば、議場の形式、内装仕上、オフィスレイアウトなど、多くの実例を見て、そこから得た共通言語のもと、齟齬を減らして検討を進めます。

### ●段階毎に確認するコスト管理と環境性能(ZEB Ready)

段階毎に数値の確認・修正を繰り返し、目標を確実に達成します。コストは、超概算・基本設計概算・実施設計概算・積算の流れで進めます。環境性能は、設計中、モデル建物法による確認を常時行います。

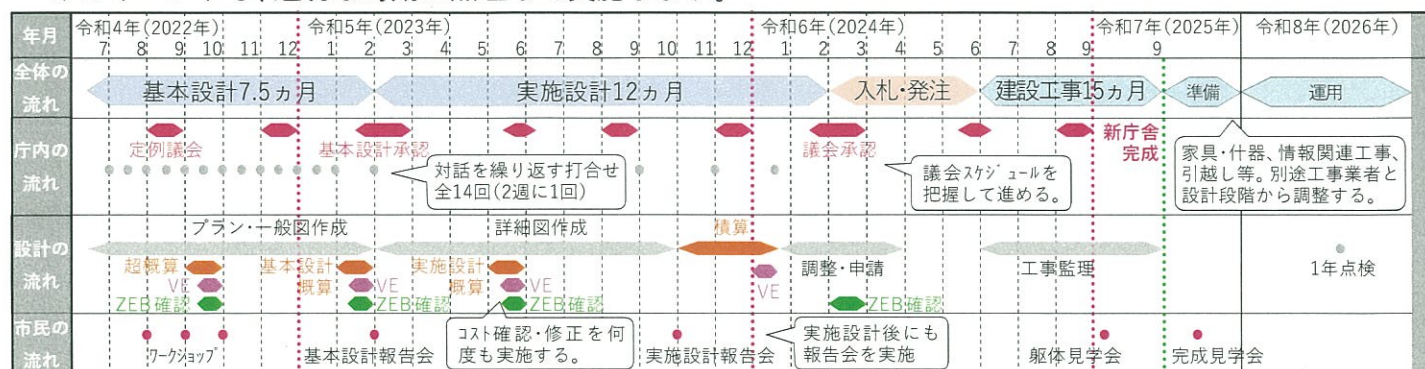
### ●働きやすい執務空間を基準に全体をつくる

庁舎機能で最も重要と考える執務空間を基準に全体をつくります。将来への柔軟性と職員の働きやすさを考慮した設計を行います。また、オフィス環境整備支援や情報整備支援の受託者と密に連携して、機能的な執務空間づくりを進めます。

## 事業スケジュール

### ●クリティカル項目を明確にした設計工程

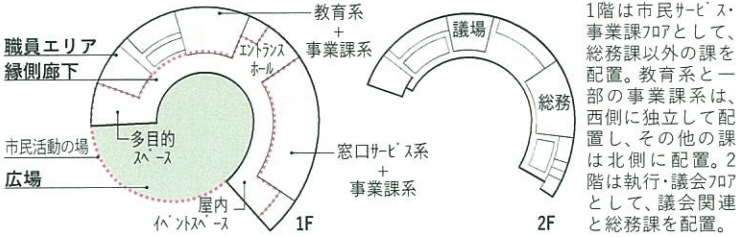
関係者(市民・職員・外部団体)や調整事項(庁内行事・議会・別途工事関係者)を踏まえ、クリティカル項目を明確にした設計工程のもと着実に事業を進めます。また、ワークショップ・報告会・現場見学会など市民向けのイベントも、適切な時期に無理なく実施します。



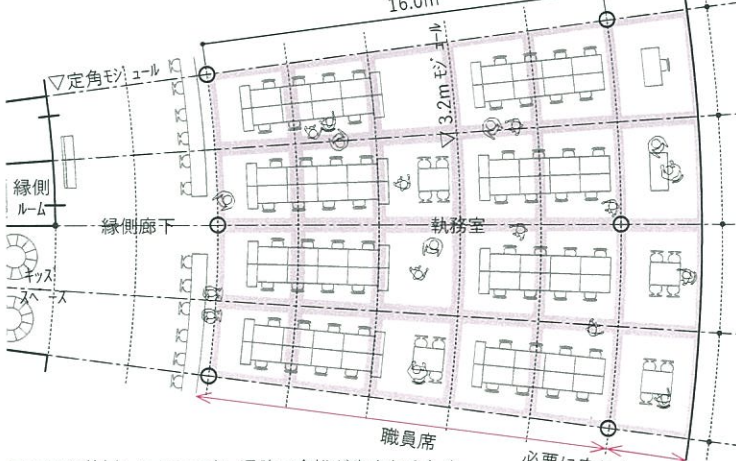
ひとつながりで見通しの良い「縁側廊下」と執務室

### 3.「機能的・経済的なコンパクト庁舎」について

**3-1. 市民活動を中心に据えた3層の環と縁側廊下の繋がり**  
平面は、同心円状に、広場・縁側廊下・職員エリアの3層で構成され、**市民活動の場を中心に縁側廊下で全体が繋がります**。エントランスホールは1階中央に配置し、来庁者が短い動線で目的の場所へ行けるようにします。1階は、執務室を北～西側に配置し、職員用のバックヤードと通用口を職員駐車場に近い西側に配置します。平面上の両端部には、屋内イベントスペースや多目的スペース等の広めの空間を設けます。日常的に様々な利用ができると共に、災害時には縁側廊下と一体的に連携しつつ、一時避難所としても利用できます。2階の諸室についても部門ごとにゾーニングされた計画とします。



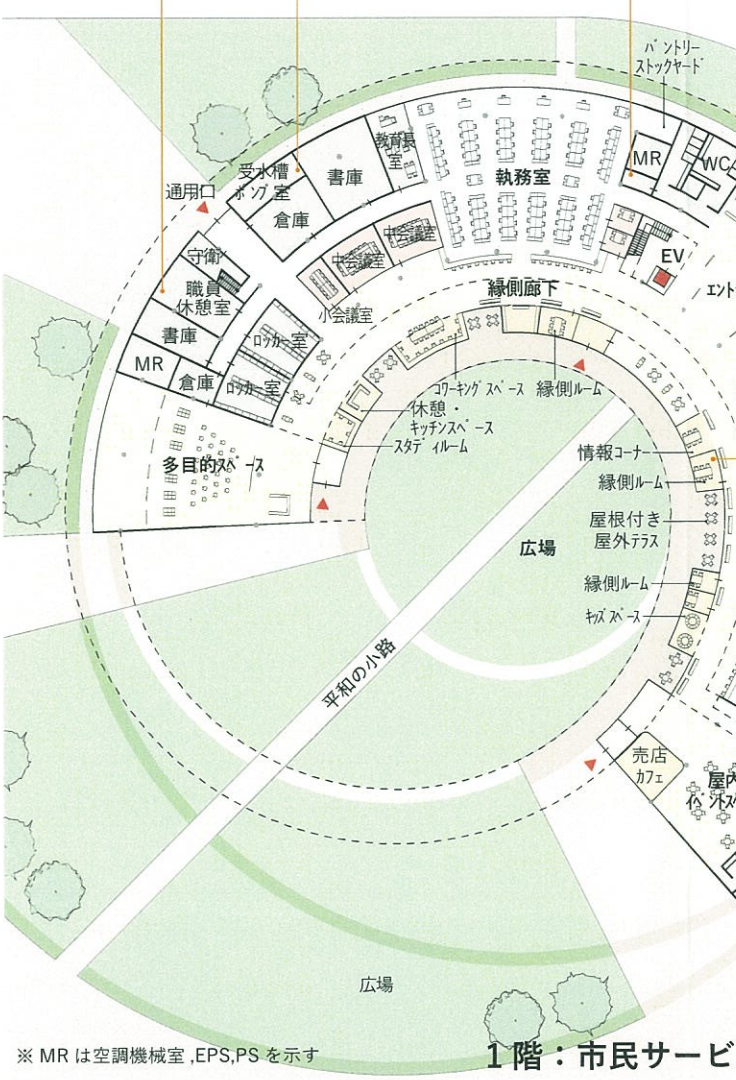
**3-2. 働きやすい柔軟な執務空間とそれを支えるモジュール**  
執務室は、約500㎡を1単位（80～90人程度）として考えます。1単位毎に相談室・MR（空調機械室やEPS等）・パントリー・ストックヤードを設け、**機能的に均質で働きやすい執務室をつくります**。柱は、同心円状の3.2mモジュールとデスク配置から決まる定角モジュールの交点に落とすため、既製品のH鋼で構成できる柱スパンを可能にすると共に、将来的なレイアウトの柔軟性を確保します。**コスト面と機能面を両立した柱割を採用します**。



同心円の外側へいくにつれ、通路に余裕が生まれるため、その部分に柱を落とします。外周部は、柱によってゆるやかに区切られるため、課長席がある従来のレイアウトとノンテリトリアルレイアウトの両方に対応できます。

**3-3. 会議室・保管スペースの効率化とデジタル化への対応**  
**会議室:**共有化や、エリアに集約することで効率化を図ります。例えば、縁側ルームは相談室としても使え、2階の小会議室は災害応援部隊の待機室としても使えます。  
**保管スペース:**書庫は各執務室ごとに集約配置することで効率化を図ります。それにより、執務室内の収納家具を最小限に抑え、見通がし良く、部門間の連携を高めることができます。職員同士のコミュニケーションを活性化できます。  
**デジタル化への対応:**執務室は全てOAフロアとします。加えて、縁側廊下も床スラブを下げてください。将来的に、窓口業務の処理を端末やAIが行うことを想定して、それらの配置を限定しない対応策をとります。

**職員休憩室**  
普段は食事・休憩スペース、災害時は仮眠室（シャワー付）として機能。ロビー室と同エリアに配置。  
**受水槽・ポンプ室**  
受水槽、消火・雨水ポンプを集約して配置。耐震性貯水槽を検討。  
**授乳室**  
来庁者の視線に考慮し、エントランス近くが目立ち過ぎない位置に配置。



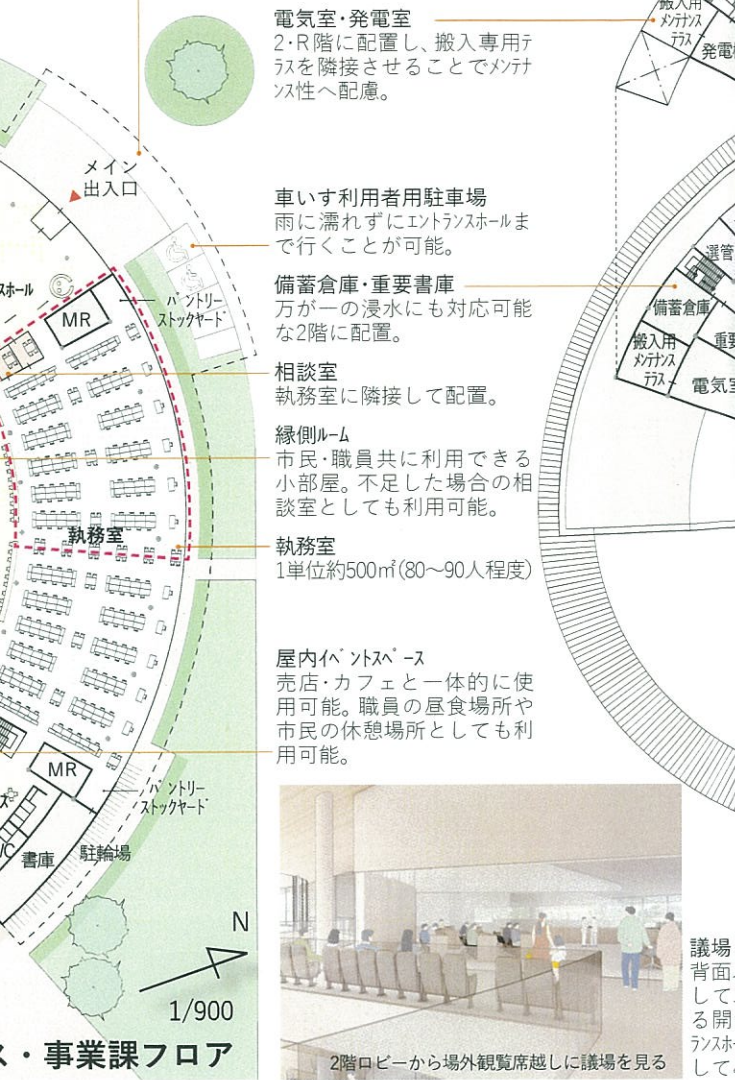
※ MR は空調機械室、EPS、PS を示す

#### 1階：市民サービス・事業課フロア

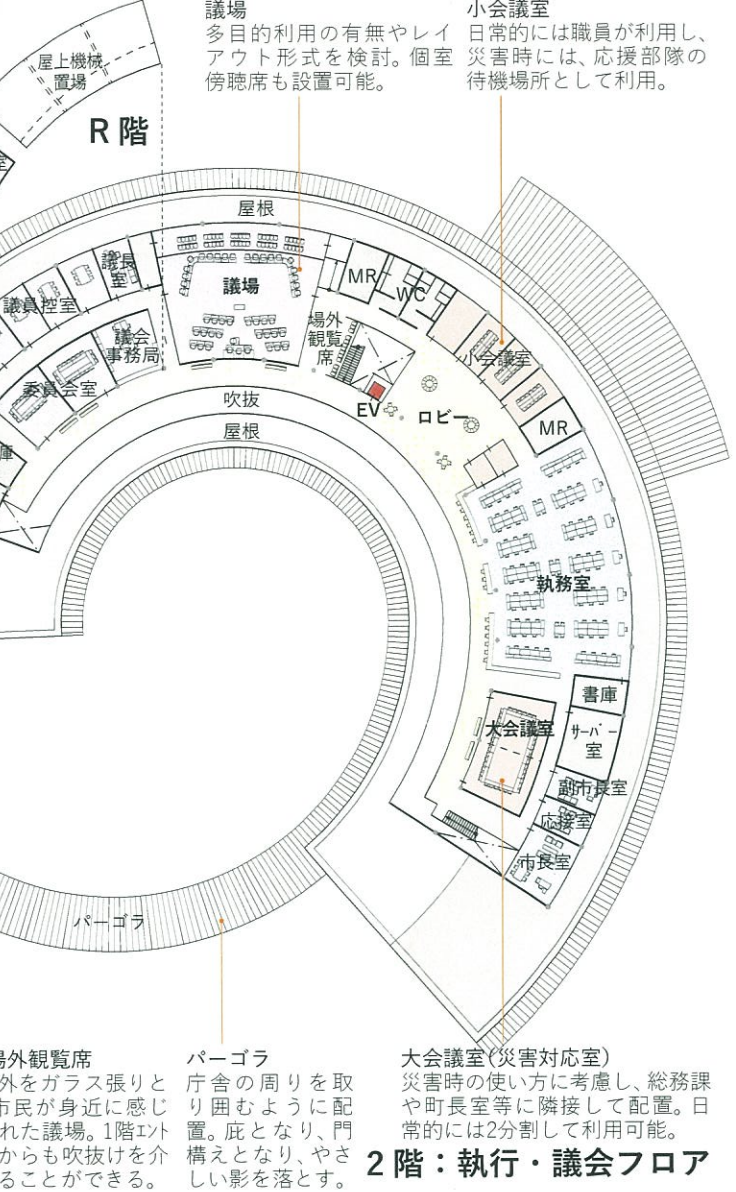
**3-4. 建設コスト縮減への配慮項目**  
**延べ面積を抑える:**会議室の共有化・保管スペースの集約・各居室の必要面積の見直しを行い、建設コストへ直接的に影響する延べ面積を抑えます。基本計画与件の7,000㎡に対して6,700㎡まで（4%程度）抑制可能です。  
**鉄骨純ラーメン構造の採用:**十分な安全性を確保した上で、軽量の鉄骨造を採用し、地中躯体にかかるコストを抑えます。執務室に必要なとされるロングスパン（16m）も鉄筋コンクリート造に比べて安価につくることができます。  
**モジュールを徹底する:**モジュールに連動する躯体・建具・ガラス・照明・空調等をコントロールし、性能とコストのバランスがとれた計画とします。  
**排出土の外構利用:**掘削残土を外構の盛土に利用して土工事を抑制します。レベル差は広い外構内で解消します。

**3-5. 維持管理コスト縮減への配慮**  
**省エネ技術の積極的活用:**省エネ技術を活用し、照明・空調の一次エネルギーを下げ、ランニングコストを抑えます。  
**雨水利用:**年間約2000mmの降雨を利用して、庁内の雑用水と外構植栽への散水に利用します。  
**軒を出して外壁の防汚効果を高める:**建物全周に軒を出すことにより、外壁やガラスが汚れるのを防ぎます。  
**予備スリーブの設置:**大梁には予備スリーブを設置し、将来の設備改修時の配管ルート等を確保します。

**車寄せ**  
余裕あるスペースを確保した車寄せは、屋根により雨に濡れることなくアクセス可能。  
**電気室・発電室**  
2・R階に配置し、搬入専用テラスを隣接させることでメンテナンス性へ配慮。  
**車いす利用者用駐車場**  
雨に濡れずにエントランスホールまで行くことが可能。  
**備蓄倉庫・重要書庫**  
万が一の浸水にも対応可能な2階に配置。  
**相談室**  
執務室に隣接して配置。  
**縁側ルーム**  
市民・職員共に利用できる小部屋。不足した場合の相談室としても利用可能。  
**執務室**  
1単位約500㎡（80～90人程度）  
**屋内イベントスペース**  
売店・カフェと一体的に使用可能。職員の昼食場所や市民の休憩場所としても利用可能。



2階ロビーから場外観覧席越しに議場を見る

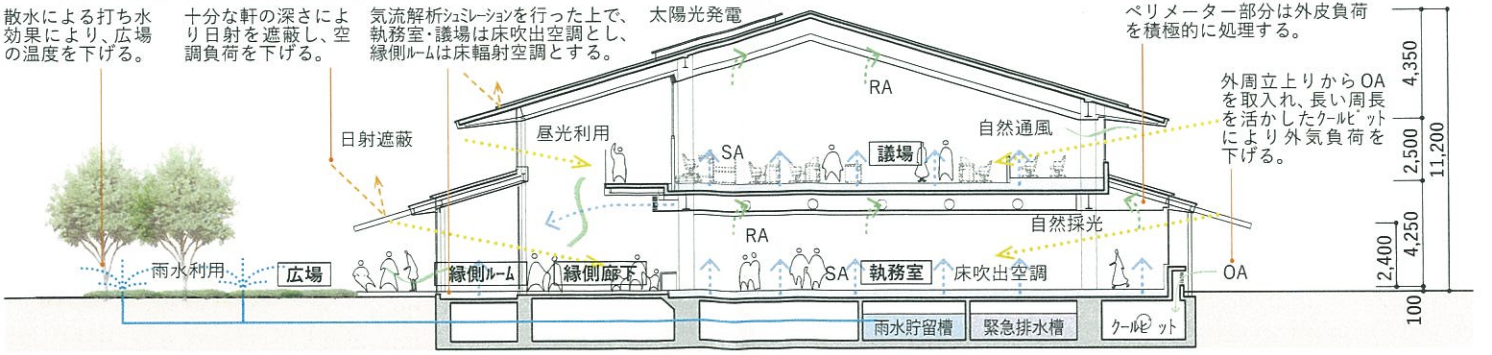


#### 2階：執行・議会フロア

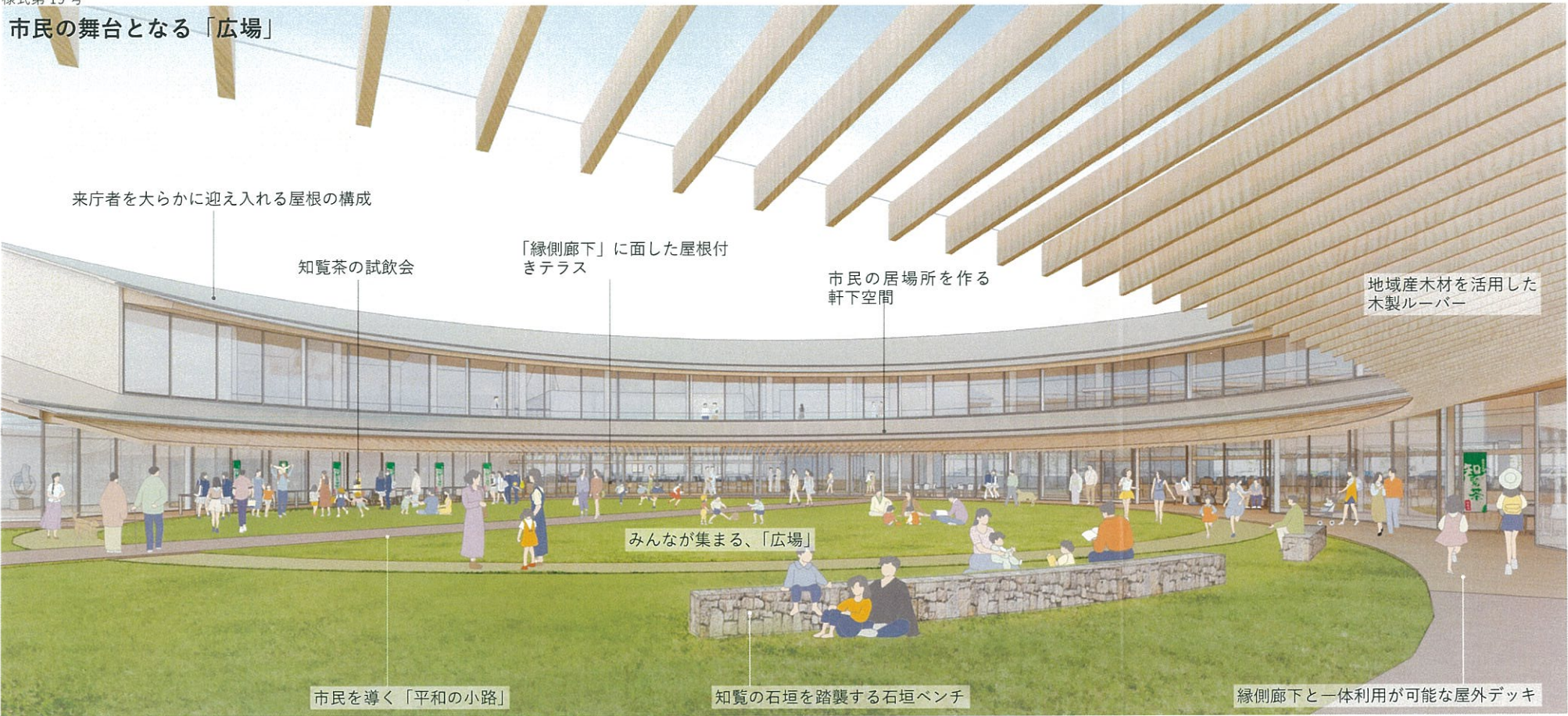
### 4.「環境にやさしい庁舎」について

**効果的な省エネ技術を採用し、確実に ZEB Ready を達成する**  
アクティブ技術を主体に設備計画を練り、日射遮蔽・自然採光・自然通風・クールピットなどのパッシブ技術も併用することで、確実に ZEB Ready を達成します。その他、太陽光発電や雨水利用など創エネの活用も検討します。

|          |       |                 |      |         |                                      |                      |                         |
|----------|-------|-----------------|------|---------|--------------------------------------|----------------------|-------------------------|
| アクティブ技術  | 照度適正化 | 基準照度 500lx 以下   | -9%  | パッシブ技術  | 高断熱外皮                                | 高性能断熱材(ポリスチレンフォーム3種) | 基準一次エネルギーからの削減量<br>-51% |
|          | 高効率照明 | LED 照明          | -2%  |         | 日射遮蔽                                 | 屋根 t=100、外壁 t=50     |                         |
|          | 照明制御  | 人感センサーによる在室検知制御 | -5%  |         | 高性能遮熱サッシ                             |                      |                         |
|          |       | 昼光利用照明制御        |      |         | ガス入り Low-e 複層ガラス                     |                      |                         |
|          |       | 初期照度制御          |      | 軒・ブラインド |                                      |                      |                         |
|          | 個別分散  | 高効率パッケージ形空調機    | -14% | 昼光利用    | 自然採光                                 |                      |                         |
|          | 熱源    | 高効率熱源           | -5%  | 熱負荷低減   | 自然通風・クールビット                          |                      |                         |
|          |       | 熱源の台数制御         |      |         |                                      |                      |                         |
|          | ポンプ   | 高効率空調用ポンプ       | -5%  | その他     | 環境技術                                 | - α %                |                         |
|          | 一般空調  | 高効率空調機          | -6%  |         | 太陽光発電、雨水利用、居住域空調（床吹出：執務室、床輻射：縁側ルーム）、 |                      |                         |
| 全熱交換機の導入 |       |                 |      |         |                                      |                      |                         |



市民の舞台となる「広場」



市民の活動を支える「縁側廊下」



5. 「まちづくりに貢献し、市民の誇りとなる庁舎」について

5-1. 市民の活動と平和への思い、環と小路

本敷地は知覧飛行場の滑走路跡地であり、戦時中、数多の特攻隊員が平和を願った場所です。新型コロナの流行やウクライナ情勢など、世界情勢が不安定な昨今だからこそ、「平和を語り継ぐ都市」にとっての拠りどころとなる建築が求められるのではないかと思います。この新庁舎は「環」の形をしています。ここで展開される市民の活動が、ひとつつながりの「環」となり、地域へ広がります。また、交差点から広場を抜けてエントランスホールまでは、滑走路を想起させるまっすぐな「平和の小路」を通します。77年前から変わらない1つの軸の上に、市民の平和への思いを重ね、地域へ伸びていきます。市民の活動や平和への思いが「環」の内外に広がり、人や歴史にそっと働きかけ、平和なやわらかい風景、ひいては、市民の誇りを生み出します。

5-2. 風景に沿う意匠

茶畑・山並み等の風景や武家屋敷等の歴史に馴染むように、2階建とし高さを抑えたおおらかな勾配屋根をかけます。南九州市の文化的背景に沿う、飾りすぎないシンプルな意匠とします。



5-3. 市民のハレとケの舞台となる、広場

庁舎の中心に置かれた「広場」は市民活動の舞台となります。ぐるっと回った軒下空間を生かして、知覧茶の試飲会や物産市(マルシェ)、お祭りなどのイベントに活用します。日常的には市民が好きなことをしながら思い思いに過ごせる、公園のような憩いの場となります。

5-4. 市民の活動を支える、縁側廊下

新庁舎のメイン動線となる「縁側廊下」には、市民活動に必要な大小の空間を配置しています。打合せの場となる縁側ルームやコワーキングスペースの他、市民の要望を踏まえた諸室を備え、市全体の市民活動を支えます。日常的に賑わいを街に発信し、まちづくりの環を市全体に広げます。休日利用もできるように職員エリアとのセキュリティを完備します。



5-5. 南九州の伝統を継承した素材の選定

内装材や家具、周囲をぐるっと囲む軒に地域産木材を活用し、市民が親しみやすい暖かみのある意匠とします。一部の意匠には川辺仏壇等の伝統工芸や、知覧武家屋敷の石垣、頴娃の柘植材の採用を検討し、南九州の伝統を今につなげます。外構の植栽にも、武家屋敷の風景を作るイヌマキや、チャノキ、頴娃の柘植などを取り入れ、南九州の風景を凝縮します。



6. 「本業務を進める上で有効な独自提案」について

6-1. 行政・市民・設計者がスクラムを組んで取り組む、既存庁舎の利活用の検討

「三地域の均衡ある発展」のためには、各支所庁舎を地域の拠点として利用することが重要です。支所窓口としての十分な機能維持はもちろんですが、移転によって空くスペースの利活用が、地域振興の要となると考えます。そこで、公共施設運営の専門家である大学関係者を交えて、利活用の検討をすることを提案します。まずは、職員の勉強会やワークショップに始まり、必要に応じて市民ワークショップへ展開する流れです。既存庁舎の利活用方法を、新庁舎との効果的な連携を含め、みんなで探っていくことを検討します。

6-2. 縁側廊下の使い方を皆で決める

本提案の特徴である「縁側廊下」に面した諸室の用途は、関係者の方々とのワークショップを通し決めていきます。この諸室群は職員エリアから独立しているので、諸条件に縛られない用途決めや空間づくりが可能です。

6-3. 3Dを積極活用し、イメージと性能を共有する

外観・内観の検討に3Dを積極活用し、庁舎のイメージを分かりやすく伝えます。環境性能の検討は、気流解析シュミレーションを通して、空調効率・自然換気(南九州市の卓越風利用)の検討を行います。



建築データ

延床面積：約 6,980 m<sup>2</sup>  
建築面積：約 4,430 m<sup>2</sup>  
主要構造：鉄骨造 2 階建 (耐震構造)  
駐車台数：500 台 (車)・40 台 (自転車)

|                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| R 階 (屋上機械置場)        | 60 m <sup>2</sup>    |
| 2 階 (執行・議会707)      | 2,490 m <sup>2</sup> |
| 1 階 (市民サービス・事業課707) | 4,430 m <sup>2</sup> |
| 合計                  | 6,980 m <sup>2</sup> |